

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第2区分
 【発行日】令和7年5月13日(2025.5.13)

【公開番号】特開2024-6535(P2024-6535A)
 【公開日】令和6年1月17日(2024.1.17)
 【年通号数】公開公報(特許)2024-009
 【出願番号】特願2022-107533(P2022-107533)
 【国際特許分類】

A 6 1 B 3/028(2006.01)

10

A 6 1 B 3/103(2006.01)

【F I】

A 6 1 B 3/028

A 6 1 B 3/103

【手続補正書】

【提出日】令和7年5月1日(2025.5.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被検眼に向けて視標光束を出射する視標呈示手段と、前記視標光束の光学特性を変化させる矯正手段と、を有し、前記被検眼の眼屈折力を自覚的に測定する検眼装置であって、前記被検眼の他覚式測定における他覚眼屈折力を取得する他覚眼屈折力取得手段と、前記被検眼の前記他覚式測定における前記被検眼の角膜頂点からレンズ装用基準位置までの第1距離を取得する第1距離取得手段と、

前記被検眼の自覚式測定における前記被検眼の角膜頂点からレンズ装用基準位置までの第2距離を取得する第2距離取得手段と、

30

前記第1距離と前記第2距離とが異なる場合に、前記第1距離に基づく第1他覚眼屈折力を、前記第2距離に基づく第2他覚眼屈折力に変換する変換手段と、

前記第2他覚眼屈折力を出力する出力手段と、

を備えることを特徴とする検眼装置。

【請求項2】

請求項1の検眼装置において、

前記出力手段から出力された前記第2他覚眼屈折力に基づいて、前記矯正手段の初期矯正値を設定する矯正制御手段を備えることを特徴とする検眼装置。

【請求項3】

40

請求項1または2の検眼装置において、

前記変換手段は、前記第1距離と前記第2距離とが異なり、かつ、前記第1他覚眼屈折力が所定の閾値を超える場合に、前記第1他覚眼屈折力を前記第2他覚眼屈折力に変換することを特徴とする検眼装置。

【請求項4】

請求項1の検眼装置において、

前記被検眼の前記自覚式測定における前記第2距離を検出する検出手段を備え、

前記第2距離取得手段は、前記検出手段の検出結果に基づいて、前記第2距離を取得することを特徴とする検眼装置。

【請求項5】

50

被検眼に向けて視標光束を出射する視標呈示手段と、前記視標光束の光学特性を変化させる矯正手段と、を有し、前記被検眼の眼屈折力を自覚的に測定する検眼装置にて用いる検眼プログラムであって、

前記検眼装置のプロセッサに実行されることで、

前記被検眼の他覚式測定における他覚眼屈折力を取得する他覚眼屈折力取得ステップと、

前記被検眼の前記他覚式測定における前記被検眼の角膜頂点からレンズ装用基準位置までの第1距離を取得する第1距離取得ステップと、

前記被検眼の自覚式測定における前記被検眼の角膜頂点からレンズ装用基準位置までの第2距離を取得する第2距離取得ステップと、

前記第1距離と前記第2距離とが異なる場合に、前記第1距離に基づく第1他覚眼屈折力を、前記第2距離に基づく第2他覚眼屈折力に変換する変換ステップと、 10

前記第2他覚眼屈折力を出力する出力ステップと、

を前記検眼装置に実行させることを特徴とする検眼プログラム。

【請求項6】

被検眼の眼屈折力を測定する検眼装置であって、

前記被検眼の他覚式測定における他覚眼屈折力を取得する他覚眼屈折力取得手段と、

前記被検眼の前記他覚式測定における前記被検眼の角膜頂点からレンズ装用基準位置までの第1距離を取得する第1距離取得手段と、

前記被検眼の自覚式測定における前記被検眼の角膜頂点からレンズ装用基準位置までの第2距離を取得する第2距離取得手段と、 20

前記第1距離と前記第2距離とが異なる場合に、前記第1距離に基づく第1他覚眼屈折力を、前記第2距離に基づく第2他覚眼屈折力に変換する変換手段と、

前記第2他覚眼屈折力を出力する出力手段と、

を備えることを特徴とする検眼装置。

-

30

40

50